



球美の里だより



No.7

お正月を楽しんだ 112 次保養学童保養 (2019 年 12 月～ 2020 年 1 月)

あけましておめでとうございます！

112 次は年の瀬に始まり、お正月を迎えた保養でした。子どもたちに喜んでもらおうとたくさんのイベントを行いました。もちろん美味しいものも盛りだくさんでした。

幻想的な新年の光で幕開け

元旦は早朝から日の出を見にみんなで岩山へ。久米島は雲が立ち込めていたので「初日の出は拝めないかなー？」と思っていたら、雲の間から真っ赤な光の柱が差し込み始めました。まるで神々しいものが降臨しているかのような幻想的な陽射しに、子どもたちも息をのんで見入っていました。

美しい日の出を拝んだあとは、沖縄・球美の里の土地の神様にご挨拶をしました。お神酒とお塩を用意して、球美の里が安全に続いていることへの感謝と、無病息災や平和を祈願して、球美の里の敷地内を回りました。

挨拶回りが終わったあとは、お正月恒例”もちつき大会”です。つきおえたお餅は丸めてお昼のお雑煮にします。「ほっぺたが落ちるとはまさにこのことなんだ！」と男の子たちの声。大人に一步近づいたようです。

午後はイーフビーチへ行って綱引き。幸運を引き



▲お正月恒例イベント”もちつき大会”。「杵(きね)ってこんなに重たいんだ！」



▲キッチンのみなさんが心を込めて作ってくれた沖縄風おせち料理。



▲でき上がったお餅はお雑煮にさせていただきます。自分でついたお餅は格別！

寄せられるよう、目一杯引っ張りました。

晩ご飯は、沖縄風おせち料理です。沖縄の祝い事には豚肉が欠かせません。紅白なます、ごぼうの天ぷら、昆布巻き、根菜の煮付け、大きな豚の煮付けが印象的でした。おかわりタイムは、初詣の神社を思い起こさせるような大行列でした。

玄関の外には、島のネーネーのヒデ子さんが子どもたちのためにお正月飾りを準備してくれました。スタッフも干支のねずみを描いたり、炭やしめ縄で彩りました。みんなで彩っていくお正月は、子どもたちにとっても良い思い出になったようです。

子どもたちと見た美しい初日の出(初陽射し)が、みなさまの新年もあたたかく照らしますように。

本年も、球美の里をよろしく願いいたします。



◀スタッフで作った手作りのお正月飾り。



◀幸運を引き寄せろ！綱引き。



◀土地の神様に挨拶回り。

Smile Smile

スマイル スマイル

沖縄・球美の里では、2019年7～12月に6回の保養を行いました。子どもたちの様子を写真と文章でご紹介します。
※112次学童保養は前ページをご覧ください。

107次保養 学童保養／2019年7～8月

夏休み保養、第1弾。澄んだ水色の空が印象に残る保養で、イーフビーチや泥遊びを思い切り楽しみました。久米島の儀間地区では恒例の沖縄角力(すもう)大会が開かれ、青年会の皆さんから、球美の里の子どもたちも招待していただき、男女合わせて11人が立候補して参加しました。他の子どもたちも応援団として参加。高学年の部ではなんと優勝、準優勝することができました。勝つこと、負けること、応援すること、その全てからとても良い経験を得ることができました。今回は初めての長期保養(20日間)の試みでしたが、台風接近のため18日間の保養となりました。



108次保養 学童保養／2019年8月

夏休み保養、第2弾。暑さに挑みたくくなるような太陽の下、海でも陸でも身体を思い切り動かしました。今回の保養では、比嘉老人クラブのみなさんにグランドゴルフを教えていただきました。10チームに分かれて、初めてのパッティングに挑戦。とても楽しい時間を過ごしました。大人でも出すのが難しいホールインワンを出した子どもたちは、地元の新聞に出ることになり、大喜びでした。



109次保養 母子保養／2019年10～11月

秋の母子保養です。台風19号の接近で当初の予定が延期となり、10月後半から無事に実施することができました。磯の生き物観察で、子どもたちは初めて見る海の生物に興味津々。ハロウィンの時期には、やちむん土炎房さんとリトリート・ガーデン(パン屋)さんにご協力いただき、ハロウィンパーティーを開催しました。子どもたちは、お母さんたちが作った衣装で青空の下をお散歩、草原の中で音楽会をしました。また、やちむん土炎房さんのご好意で赤土で思い切り泥遊びをしました(4ページの「たのしいがいっぱい!」を参照)。



110次保養 母子保養／2019年11月

晩秋の母子保養でした。海の水温が少し冷たくなってきたので、イーフビーチでは水遊びはほどほどにして、砂浜で綱引きをしました。子どもたちもお母さんたちも楽しく必死に綱を引きました。負けて悔しくて泣き出した子がいたこともまた良い思い出です。今回の保養でも、やちむん土炎房さんのご厚意で「あかんちゃーるるぶったりあしびー」(赤土どろまみれ遊び)を思い切り楽しみました。



111次保養 母子保養／2019年11～12月

終始、快晴に恵まれた母子保養でした。日中はまだTシャツで過ごせますが、朝夕は長袖が必要になってきました。イーフビーチでは前回同様、綱引き大会を開催。人気プログラム「シーサーづくり」では、「自分の表現したいことを形にしたい」という想いから、とても集中した姿が見られました。今回、球美の里をいつも支援してくださっているネパリ・バザーロさんの「沖縄カカオ・プロジェクト」で生産されたチョコレートを、リトリート・ガーデンのオーナーのご厚意で、お土産に買えるようにしていただきました(写真:リトリート・ガーデンの庭で木登りする子どもたち)。



保養参加者のアンケートから

☆夏休み学童保養に参加した子どもたちの声 (子どもたちの想いが伝わりやすいよう、原文をそのまま記載しております)

- 「イーブビーチもたのしかったけど、一ばんみんなとあえたりあそんだりしたことがほんとに、ほんとにたのしくて、いまも一しょうわすれられません。ほんとうにおうえんしてくれたかた、ぼきんをあつめてくれたかた、ありがとうございます。ここにすみたいぐらい、うれしいです」
- 「私は初めて海にはいりました。みなさんのおうえんがとどいて、ゆうきがでました。ありがとうございます。またかならず久米島に来たいです」
- 「今回で三回目なのですが、毎かいくるたびとっても楽しいです。今回三週間球美の里に宿泊できてうれしいです。ここにこれたのもおうえんして下さったみなさまのおかげです。本当にありがとうございます。また、ぜひ来たいです。そして楽しい思い出をもっとつくりたいです」
- 「全こくのおうえんしてくれるみなさん。いつも、ぼくたちやわたしたちを、おうえんして下さり、ありがとうございます。ぼくたちのために、このようなしせつをひらいて下さり、ありがとうございます。このくみの里にいるのも、みなさんがしせつをつくってくれたおかげ、おうえんしてくれている人のおかげです」
- 「ときどきいじめられるので、とてもいやでした。ストレスもたまっていたと思います。けれど、この久米島にきて、心がおちつきました。いじめのこともわすれ、球美の里にいてよかったです」
- 「わたしは、はじめて球美の里に来たとき、“なじめるかな？ 友だちができるかな？”と心配でした。でも、すぐになじめたし、友達もでき、とてもたのしい日々をおくれました。私が0才か1才の時、東日本大震災という、とても大きなじしんがきました。もちろんわたしはおぼえていないし、その時の話も少ししか聞いたことはありません。でも、そのことでいろいろな方が協力してくれて、この球美の里ができたことは知っています。とても感謝しております」
- 「きれいな海にはいったよ。きれいできもちよかった。はじめてなまこをさわったら、ぶにぶにしていた。みんなとダンスをおどった。たのしかったよ」
- 「(球美の里で) 沖縄戦のDVDを見て、やっぱり戦争はおろかなものだとあらためて知り、ガマや久米島虐殺事件などを知りました。昔の人が自分の身を犠牲にしてまで守ってくれたからこそ、今僕たちが沖縄に来れていることに感謝します。また機会があったら、沖縄に来たいです」

☆ 2019 年秋の母子保養に参加されたお母さんの声 (その1)

- 「原発事故の話が急速に風化していく中で、このように保養を継続して下さるのは、本当に嬉しく有り難いです。保養を実施して下さる団体も年々減り、福島でも放射能の話題を口にするのはためらわれる状況の中、球美の里は、不安を抱えているママさん達にとって、その不安を口外できる貴重な場所になっていると思います」
- 「福島の山や海などにも連れて行きたいと思いますが、そ

ういう場所こそが除染出来ないのが現状なので、久米島の自然の中でいろいろな体験をしてほしいと思います」

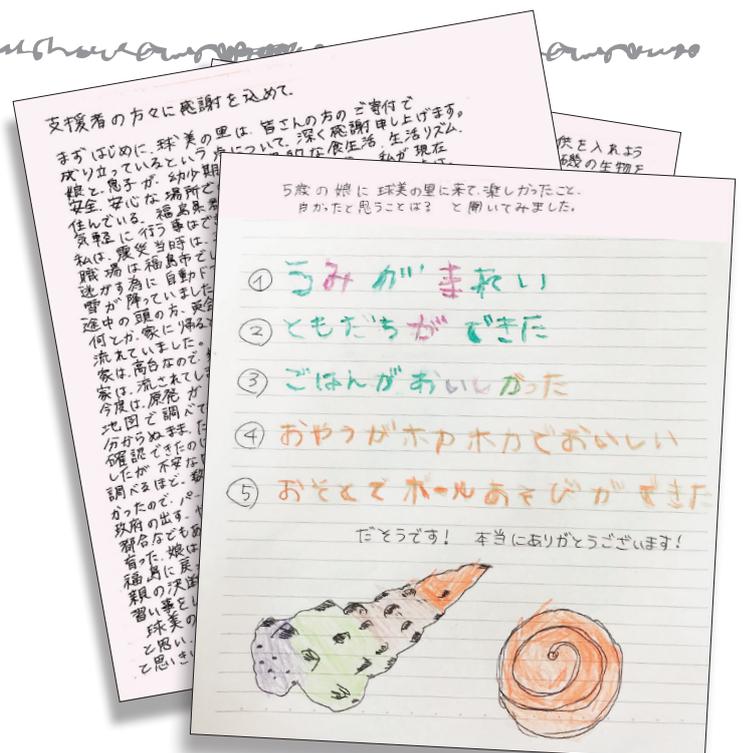
- 「砂場あそび、海遊びが出来ない、させたくない現状です。球美の里に定期的に来ることができたらいいと思います。楽しい時間をありがとうございました。親子で完全に充電できました」

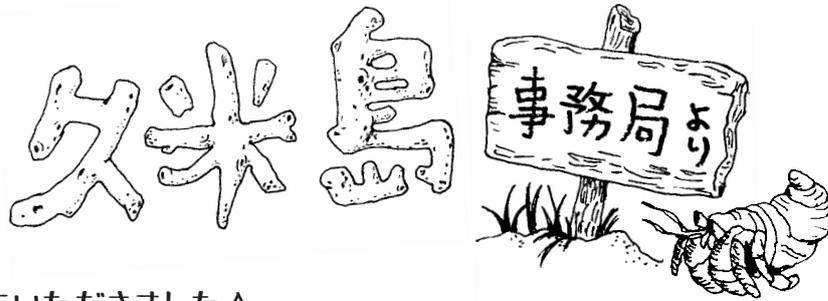
保養に参加された

お母さんとお子さんからのお手紙

[要約] 安心安全な外遊びや海水浴は、私が現在住んでいる福島県郡山市では気軽に行うことができません。見えない放射能の影響が頭の中をよぎる毎日の中で、「球美の里に行けば…」という思いを心のよりどころにして過ごしていくと思います。球美の里がこれからも続いていってくれることを祈っています。

☆沖縄・球美の里での保養の様子は、球美の里のブログ (<http://kuminosato/blog.fc2.com>) でご覧いただけます。球美の里のホームページ (<https://www.kuminosato.net>) から入っていただくか、検索サイトで「球美の里保養日記」で検索してください。





☆たくさんのご寄付をいただきました☆

2019年11月に、沖縄アミクスインターナショナルスクール小学校（沖縄県うるま市）の皆さんから備品のご寄付が届きました。同校では一昨年に続いて2019年10月にチャリティーバザーを開催してくださり、今回の売上の94,000円で、球美の里のホームページのウィッシュリストでお願いしていた中から、掃除機や長靴、石けんなどたくさんのごグッズを買って送っていただきました。ありがとうございました。

* アミクスインターナショナルスクールのブログアドレス：

<https://www.amicus.ed.jp/news/23256/>

久米島の皆さまからも、「子どもたちに沖縄の食材を食べて欲しいさー」と、旬のお野菜や果物をたくさん届けていただいています。沖縄の皆様のお心遣いに感謝いたします。他にも、ここには書ききれないほど、全国の皆さまから希望の詰まったたくさんのごギフトが届いています。心より感謝と御礼を申し上げます。



▲山里ゆんたく市場様より真っ赤なドラゴンフルーツ80個をいただきました。（カラー写真は球美の里HPで見いただけます）

☆ユニットバス完成☆

待ちに待った「ユニットバス」が2019年10月に完成しました！！
2013年から母子保養に参加されているお母さんは「こんな日が来るとは夢にも思わなかった」と感激もひとしお。これまではシャワー室はあってもバスタブのある風呂場は1つしかなく、ゆっくり入浴できず、ストレスを感じられた方も多かったのではと思います。皆さんの願いがやっと叶い、109次保養から使用できるようになりました。



☆太陽光パネル進展状況報告☆

2019年11月に、蓄電池設置と施設内への通電が開始されました。2020年1月には、沖縄電力の最終的な検査が終了しました。蓄電池稼働は国の認可が得られ次第となります。



球美の里・プログラム紹介

たのしいがいっぱい!



②あかんちゃーるるぶったりあしびー

いったい何でしょう？ 沖縄語で、「赤土どろまみれ遊び」の意味だとか。皆さん、一度でスラスラ言えますか？ 舌をかみそうな、とても面白い名前ですね。
これは、109次保養から始まった新しいプログラムです。いつもシーサーづくりでお世話になっているやちむん土炎房さんの赤土泥山で、泥こ遊びをします。泥染めと一緒にいきますが、初めはおっかなびっくりの子どもたちも、次第にその面白さにのめり込み、時間が経つのも忘れるくらい。球美の里への帰り道は、大きな笑顔いっぱいの「泥人間」行進となります。



クミサトごはん!

島のネーネー
ヒデ子さん



「球美の里のご飯がおいしいので、作り方を知りたい」という保養者の方々の声に応えて、今回から「球美の里のお料理一品」をご紹介しますコーナー「クミサトごはん!」をスタートします。第1回は、球美の里キッチンの顔、ヒデ子さんにお話をうかがってきました♪

ヒデ子さん直伝!

☆ウムクジアンダーギー☆

- 蒸しベニイモ・・・600g
- くず粉・・・300g
- よもぎ・・・お好み(灰汁抜きに1分ほど湯がく)
- 三温糖 (キビ砂糖も可)・・・150g

上記を混ぜてハンバーグ状にし、170℃の油でカリッと揚げたらでき上がり♪

今回は、キッチンのみなさん一押し! 球美の里で今年初公開された新メニュー「ウムクジアンダーギー」をご紹介します。ウムクジとは沖縄の方言でイモのデンプンのこと、「ウムクジアンダーギー」は主にベニイモとくず粉を使った、中はモチモチ、外側はカリッカリのおやつです♪ヒデ子さんの畑で収穫された無農薬のベニイモとヨモギで作ってくださっています。月桃(げっとう)の葉に乗せて、見た目もバッチリ。南の島料理の雰囲気一段と醸し出されました。食べ物は見た目やその土地にあった雰囲気も大事な味の一つになります。月桃には殺菌効果もあり、昔の人は味噌の保存などにも活用していました。葉っぱは、子どもたちと一緒に施設の周りで摘んできました。

【ヒデ子の豆知識】くず粉の代わりにタピオカ粉を使用すると、冷めてもモチモチ感が味わえる! くず粉とタピオカ粉をミックスしてもOK!

「ナデジダ訪問記」

2015年に球美の里のスタッフになった時から、ぜひとも訪問したかったのがベラルーシにある子どもたちの保養施設ナデジダ(希望)です。2019年9月、チェルノブイリ子ども基金はナデジダ創立25周年記念イベントに招待されました。事務局長佐々木真理さんの紹介で私も同行させていただきました。基金の共同代表で丸木美術館の理事長小寺隆幸さん夫妻もご一緒でした。

ナデジダでは、所長のマクススキーさんとスタッフの方々が歓迎してくださいました。白樺や松が生い茂るナデジダの敷地の中は、空気がとても澄み切っていて、落ち着いた雰囲気を醸し出していました。

25周年記念イベントの一つとして、ナデジダの近くにある森の中に手作りの大きなアスレチックが完成しており、お披露目の式典も行われました。

ナデジダの広大な敷地の中には、アロマセラピーやカウンセリング、医務室や歯科治療施設など様々な医療的なサポートを受けることができる医療棟、学校の授業を行うシコラ、子どもたちが寝泊まりする建物、屋外遊具類、食堂、アリーナなど多様な施設があります。さらに、施設の奥に広がる農地では有機栽培で農業を行っており、ナデジダでの食事に利用されているとのことでした。

充実した施設、手入れが行き届いている環境など、学ぶことがとても多かったのですが、何よりスタッフの子どもに対する熱い想いを感じることができたことが一番の収穫でした。

見学を終えて空港に向かう車に乗る前に、マクススキー

所長と握手を交わしました。「ナデジダ、球美の里、ナデジダ、球美の里」と繰り返しおっしゃってください、共に頑張っていこうという熱いメッセージと受け取り、帰国の途につきました。

沖縄・球美の里 久米島 三井裕司

* ナデジダは1986年4月26日に起こったチェルノブイリ原発事故後に作られた、放射能汚染地域に住む子どもたちの健康回復施設の一つで、ベラルーシ・ミンスク州にあります。年間3000人以上の子どもを受け入れています。チェルノブイリ子ども基金は、1994年の設立当初より支援しています。ナデジダ創立25周年イベントの様子はチェルノブイリ子ども基金のホームページに詳しく載っています。



▲新しく完成したアスレチックで遊ぶ子どもたち。

たらちね・こども保養相談所から

「尿中セシウム測定」の結果 ～107次長期保養を終えて～

「尿中のセシウム測定」は1回の測定で2ℓの尿を採尿し、放射能測定器で測定します。日常生活を送る中で食事や呼吸などから体内に入ったセシウムが、どのくらい尿中に出ているのかを知ることができます。

また、保養前後に採尿をすることにより、福島で日常生活を送っている状態と保養に参加した後の状態で、結果を比較することができます。

右下の表は107次保養(保養期間2019年7月20日～8月6日/18日間)に参加した子どもたちの保養前後の尿中セシウム測定結果です。「保養前」は保養に参加する前の2019年5～7月に採尿、「保養後」は保養から帰ってきてすぐの2019年8月に採尿を行いました。

保養に参加した35名のうち、男児は19名中13名、女児は16名中12名、全体で約7割の子どもたちが保養前と比べ、保養後の尿中セシウムの値が下がっていました。

これは日常生活で食べ物や呼吸など何らかの要因で体内に入ったセシウムが、比較的線量の少ない土地で生活し、汚染の可能性の少ない食事をすることで、代謝によって体内に蓄積していたセシウムが体外へ排出され、結果的に数値が下がったということになります。

保養後のセシウム値が上がっている子どもたちもいます。これまで学童保養では保養前後の尿中セシウムの測定を複数回行ってきましたが、同じようなケースが見られたことがありました。

尿中のセシウム測定はたらちねクリニック院長の藤田操先生から保護者の方に結果をお渡しするのですが、保養後に数値が上がってしまった要因がないかをおうかがいすることもあります。「保養から帰ってきてからすぐに子どもの祖父母の家に泊まっていたので、地物の野菜などを食べる機会が多かった」「お祭りに行くことや外食が多く、普段とは異なる食生活だった」というお話もありました。ただ、それだけが保養後に数値が上がってしまった要因とは一概には言えません。※1

生活環境や食生活によっては保養後に数値が上がってしまうこともあり、少なくとも保養前の尿中セシウム値については全員検出されていることから、気を付けていても避けられない被ばくがあるというのが現状です。

また、今まで尿測定を実施した回の保養期間が8～9日間であるのに対し、107次は18日間

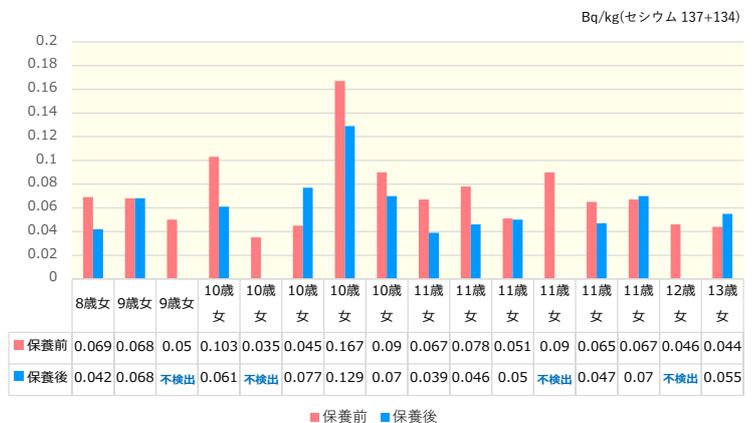
の長期保養を実施しました。これまで保養後の数値が不検出となるケースはほとんどありませんでした。今回は保養後の数値が不検出だった子どもが4名おり、長期保養の効果と言えるのかもしれない。

放射能は目に見えない、感じない、におわない環境汚染です。それ故に、年月が経つと共に社会の中の関心は薄れ、汚染が無くなったかのように感じられることもありますが、人々の意識とは裏腹に今も確実に汚染は続いています。

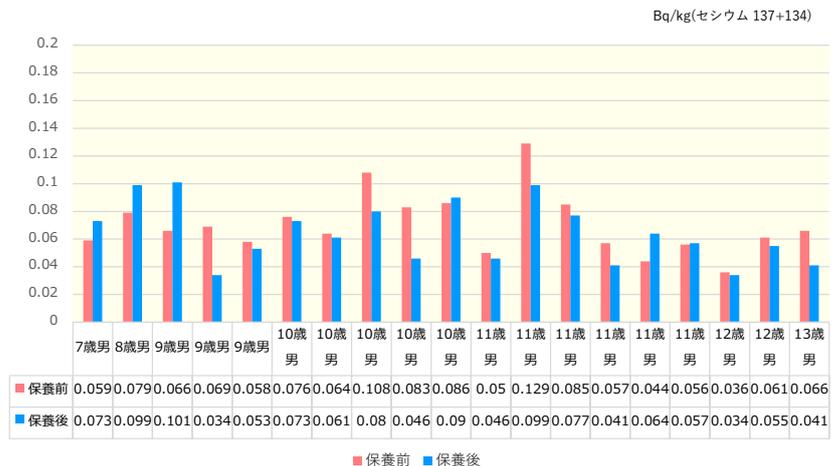
その中で、可視化できる唯一の方法である測定を行い、子どもたちの身体の状態や環境中の汚染を把握することはとても重要であり、それは子どもたちを守ることに繋がっていきます。

※1：保養後の採尿について、保養から帰ってきてからすぐの採尿が望ましいですが、人によって採尿開始日に多少のズレがあります。また、通常と同じ食生活をしていても、知らない内に高濃度の汚染のものを食べてしまったなど、汚染を体内に入れてしまう被ばくの要因は沢山考えられます。

尿中セシウム測定結果(女児)



尿中セシウム測定結果(男児)



ゲルマニウム半導体検出器導入

～より正確な測定を目指して～

昨年9月、たらちねラボでは新たに「ゲルマニウム半導体検出器」を導入しました。測定できる放射性核種は従来のNaIシンチレーションカウンターと同じですが、エネルギー分解能力（放射性核種を分別する能力）がとて高くなっています。導入前は、0.018Bq/L前後だった水道水の検出下限値も、0.001Bq/L前後まで測定できるようになりました。

福島第一原子力発電所事故からもうすぐ9年となり、事故当時と比べ放射能が減ってきているのは事実ですが、だからこそより正確に測れる検出器を使用して、放射能の存在を明確にする必要があります。専門家の先生のご指導の下、テスト測定は順調に進んでおり、今年1月から一般受付を開始しました。より確かな情報を共有できるよう、ラボスタッフ一同努力して参ります。



絵本「ストロンチウム 90 測定の巻」

ができました

このたび、たらちねで行っているストロンチウム 90 の測定・分析方法を紹介する絵本『たらちね』を出版しました。小学校 4、5 年生のお子さんから大人の方まで見ていただける内容となっています。

放射性物質であるストロンチウム 90 は、カルシウムに性質が似ているため、体内に入ると骨に取り込まれやすく、また、半減期が長いので、被ばくの危険の大きいベータ線核種です。その危険性を伝え、人々に関心を持っていただきたいという気持ちで、たらちねが制作しました。

素敵なイラストでわかりやすく紹介しているハードタイプの絵本と、詳しく説明する別冊のセットです。一般に販売していませんので、ご関心のある方はたらちねまでお問い合わせください。

[お問い合わせ先] 電話：0246-92-2526
Email：tarachine@bz04.plala.or.jp



たらちねスタッフから

原発事故から丸9年が経とうとしている今でも、当時0歳だった娘の成長をみていると、時代に取り残されたような気持ちになります。

道端に咲く花を摘み、きれいな海で時間を過ごし、木の葉を拾い、寒さに負けず外遊び。自然豊かな双葉町で成長した子どもの頃の私。今の子どもたちはどうだろうか…。子どもたちに「ごめんね。ごめんね…」と、心の中でつぶやいている自分がいました。

土・海・草木…一歩先の見えない放射能への恐怖。子どもと散歩をしに公園に行くことすら不安でした。こんな生活が子どもたちの成長にどう影響しているのかを考えると、とても心苦しく思いました。子どもたちに、自分が幼かったころ当たり前のようにしていた、自然の中での触れ合いをさせてあげたい。きれいな海を見せてあげたい。

そんな思いから、初めて球美の里の母子保養に参加した時、上の子は4歳、下の子は1歳でした。普段子どもたちを連れてカートを引いて買い物をする事すら大変な私が、沖縄で10日間も大丈夫だろうか？ 参加するにはかなりの勇気と覚悟が必要でしたが、球美の里やたらちねのスタッフの方に、「大丈夫。みんなが助けてくれるから」と背中をおされて、ドキドキしながら参加したのを今でも覚えています。

実際に参加して思ったことは、「勇気を出して参加させていただき、本当によかった」と感謝の思いばかりでした。球美の里では、子どもたちがのびのびと走り回り、たくさん大きな笑い声が聞こえ、自然の中で子ども同士が遊びを自ら考え遊んでいました。体にやさしいものを食べ、自然の中でおもいっきり遊び、ぐっすり眠る。子どもらしい生活が、この球美の里にはありました。子どもらしい姿が見られたこと、当たり前だった生活ができたこと、子どもにダメダメとかわず自由に自然と遊ばせることができたこと、母として本当にうれしかったです。

保養に参加するごとに、子どもたちには自主性が芽生え、心身ともにたくましく成長していると感じています。そして私自身も、母として子を守るたくましさや身につけてきたと思います。関わるときにしっかり寄り添い、子育てをしていきたい。そして、子どもたちに対して今できることは、今やっていきたいと、保養を通して感じました。

震災のとき、情報が錯綜する中、見えなかったことや知らずに過ごしていたことで自分を恥じました。これからの子どもたちには、真実を選択し生き抜く力を身に付けてほしいと思います。いろいろな人との関わりを通して、心の豊かな人になって欲しいです。

最初に参加させていただいた保養からもう5年が過ぎ、私は今、たらちねのスタッフとして未来の子どもたちに繋ぐ活動に参加させて頂いております。私たちの孫の時代には、この放射能の問題がよい方向に変わっている…と希望を持ち、今できることが明日に繋がると信じ、コツコツと頑張りたいです。

たらちねスタッフ 高野 透恵



～保養者からのメッセージ～ MY STORY

私が、球美の里の保養に最初に参加するきっかけとなったのは、友達がFaceBookに「球美の里への保養」をあげていたのを見て、こんな場所があるという事を知ったからです。子供たちに思いっきり海での遊びなどをさせてあげたいと強く思い、参加してみようと申し込みをしました。そして、2013年6月に初めて球美の里に来ました。当時、娘4歳、息子が2歳でした。

綺麗な海で遊び、放射能を気にせずに土や葉っぱで遊びました。子供たちはもちろん大人もストレスから解放されて、子供の遊びを見守る事が出来、参加して、久米島に連れて来られて本当に良かったと感じました。

翌年、待望の赤ちゃんを授かる事が出来ました。予定日は3月11日でした。息子は東日本大震災の時にお腹の中にいて、今度産まれてくる赤ちゃんは予定日が3.11なんて、なんていう偶然だろうと思っていました。

母子手帳を手に検診に行き、元気にお腹の中で成長している我が子の姿に喜んでいたら、先生から「頭蓋骨の一部がない」と告げられました。「無頭蓋症」と言うそうです。「お腹の中では成長出来ますが、産まれてからは生きられない」と言われ、ショックで泣き崩れました。でも、2人の子供たちも守っていかねばという想いもあり、子供たちと変わらない日常を過ごしていました。

その後も毎年、1年に一度は球美の里の保養に参加させていただき、毎回こちらで、子供たちと一緒に私も甲状腺の検査を受けさせていただいておりました。子供たちに何もない事を祈りながら、毎回ドキドキしながら検査を受ける中、先生もとても優しく丁寧に、私たちに解るように説明して下さって、「受けて良かった! 何もなくて良かった」と毎回感じておりました。

私はついでのような感じで一緒に受けていたのですが、2016年に検査をした際に、大きめの結節があると言われました。「見る限り良性の感じがありますが、こればかりはきちんと調べないとなんとも言えないので、一度地元に戻ってから、検査をしてみてもは」と言われ、紹介状を頂き

ました。少し驚きましたが、まあ大丈夫だろうという気持ちもあり、帰宅してからも、毎日バタバタしていたので、いつもの事ながら自分の事は後回しに……。地元病院に受診しに行ったのは、それから2ヶ月後の事でした。

地元の大学病院でも、先生からはやはり同じ事を言われ、「白黒はっきりした方が、あなたも安心出来るでしょうから、検体検査してみましょうね」と言われ、私も同じ考えだったので、検査していただきました。健康そのもので、それしか取り得ない私は「大丈夫」と、何故か確信していました。

結果を聞きに行く日も、「大丈夫です」と言われ、すぐに帰る事になるので、たまにはお茶でもしてから帰ろうかななどとのんきに考えていました。

順番になり、呼ばれた部屋に入るとすぐに、「今日はお一人ですか? ご家族の方は一緒にいらしてないですか?」と言われました。先生の口から「残念ですが、悪性腫瘍でした。乳頭ガンなので命に関わる事はないし、進行も凄くゆっくりなのですが、見つかった以上、半年以内にとりましょう」と伝えられ、頭の中が一瞬にして真っ白になり、何も考えられない状況になりました。

後日すぐに主人と病院へ行って説明を聞き、入院の手続きをして、10月に切除していただきました。幸いにも早期発見、早期摘出手術が出来たのと、声帯の近くだったにも関わらず、声のかすれなどの後遺症もなかったので、本当に恵まれていたんだと感じました。

薬の服用や、再発しないための検査も定期的にあるので、まだまだこの先も通院しなくてはなりませんが、それ以外は今までと変わらず子供たちと一緒に当たり前の日常を過ごす事が出来、それが本当に大切でありたいと感じています。

そして、子供たちや、その先に産まれてくる未来の孫たちが、もっと未来の七代先の子供たちが、病気などにより苦しむ事のない毎日を送ってほしい!と心から願っています。そのために、今、私が出来る事、ほんの些細な事しか出来ませんが、毎日、身体に取り入れる野菜やお肉、牛乳、卵、塩などの食べ物や調味料を安全な物を選んだり、球美の里の保養にできるだけ参加させて、外で、安全な自然の中で、規制をせずにストレスを感じさせず思いっきり遊ばせてあげる事かなと思っています。(匿名希望)

Information

★沖縄・球美の里でこれまで 114 回の保養を実施しました★

沖縄・球美の里では、2019年12月26日から2020年1月8日にかけて112次学童保養を行いました。また1月に第2回パパママ保養を行いました。2012年7月の保養開始より、年に10数回、1回1～2週間の保養を行ってきました。2018年度までは、学童保養と母子保養でしたが、2019年度より短期間のパパママ保養が企画され、

昨年5月に第1回、この1月に第2回を実施しました。

今までに子どもたち3,780名（保護者を含めると4,699名）が、久米島での保養に参加しました。2019年度はあと3回の保養を行う予定です。さらにパパママ保養も1回実施いたします。引き続き応援をよろしく願いいたします。

★ご寄付のお礼とお願い★

2019年も多くのおみなさまからあたたかいご支援をいただきました。改めてお礼申し上げます。

自然災害の多い年でした。台風・豪雨被害により、仮設住宅で年を越された方、まだ以前の生活に戻れない方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

そんな中で、恐縮ですが、振込用紙を同封させていただきました。2020年も福島の子ども保養プロジェクトを継続して行う予定です。金額の多寡は問いません。みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

※ 紙面の都合により寄付金をいただいた団体のみ記載させていただきます。

※ リサイクル品やweb上でウィッシュリスト公開後、いろいろな品物を多くのおみなさまより提供していただいています。お名前を掲載できませんが、ご了承ください。

◎ご寄付いただいたみなさま

(団体からのご寄付・2019年7～12月／順不同)

べっふふくしま保養基金、ドルトムント独日協会、藤井ようことフクシマ応援隊、オランダ日本語聖書教会、儀間建設、ドリームフォーキッズジャパン、愛知蓮蔵院ヨガ、ドテラジャパン、合田燃料機器、大阪体育大学、子どもの未来を考えるお店「せいのお」、クール・グルヌイエット、上原彩子のゆび募金、ジャパンカインドネス協会、実教出版労働組合・NNJ、ドイツ芭蕉庵、ゆいま～る那須ショップまーる、めかぶの会、ウイズアス・プロジェクト(羽田ママ)、未来の福島こども基金、虹をかける天使の会、ネパリ・バザーロ、宮ノ前ハイツ喜楽会、長谷幼稚園保護者会、くるみの会、城南信用金庫(パルシステム東京福島復興支援カンパ)、カトリック藤沢教会、ふじ本まり子後援会、母と女性教職員の会・大牟田、NAGOMIチャリティコンペ、沖縄県共同募金会

沖縄・球美の里への寄付口座／クレジットのご案内

ゆうちょ銀行	00160-6-634014 口座名 特定非営利活動法人 沖縄・球美の里
三菱UFJ銀行	高田馬場支店(053) 普通 1231737 口座名 特定非営利活動法人 沖縄・球美の里
クレジットで決済(PAYPAL)	沖縄・球美の里のホームページ「寄付する」からお申し込みいただけます。

* 2019年8月よりゆうちょ口座からの毎月定額でご寄付いただけるようになりました。金額は1,000円から自由に設定していただけて、一度手続きをすれば、以降の郵便局からの振込手続きが不要となります。ご希望の方に専用の「自動払込申込書」を東京本部より送りますので、お問い合わせください。

* お願い:寄付をしてくださった方は、払込用紙に「ご住所・ご氏名・ご連絡先の電話番号かメールアドレス」をご記載くださいますようお願いいたします。払込用紙を使われない場合(ネット送金など)は、お礼のご連絡や領収書のご送付のため、ご寄付くださった旨、お電話かファックス、メールでお知らせください。お手数をおかけしますが、よろしく願います。

* 認定NPO法人への寄付の寄付控除について:会社や団体、個人が認定NPO法人に寄付された場合、所得控除・税額控除の対象になります。球美の里も活動内容が認められて、2015年7月に認定をいただくことができました。控除を受ける場合は、領収書が必要となりますので、寄付をしてくださった際に球美の里の東京本部からお送りする領収書を保管の上、確定申告をしてください。詳細は、地域の課税窓口か球美の里までお問い合わせください。

★ご支援・応援ありがとうございます★

☆“GROUND ANGEL～EARTH～”で 球美の里を応援いただきました

球美の里創設以来、継続して支援してくださっている石井竜也さんのチャリティコンサートが、2019年12月8日（日）に開催されました。横浜市の関内ホール（約1,000席）が満席となる熱気の中、石井さんは素敵な歌声と思いがたくさん詰まったお話を披露してくださいました。アンコールで石井さんは、チャリティコンサートの最後に必ず歌われる名曲『遠い出来事』を、球美の里の子どもたちの笑顔いっぱいのスライドショーの前で熱唱。最後に、「このコンサートの収益金は球美の里に寄付します」とおっしゃってくださいました。

石井さんのコンサートでは、毎回、受付に球美の里のポスターと募金箱を設置し、球美の里の紹介チラシ等を参加者全員に配布してくださっています。石井さんやスタッフの皆さまの温かなお気持ちとたくさんのご寄付に感謝いたします。

☆ドルトムント独日協会代表の シュルターマン容子さんが来日されました

2015年より、毎年1,000万円以上の大きな金額を学童保養のために支援してくださっているドルトムント独日協会の代表のシュルターマン容子さんが、2019年11月にたらちねを訪問しました。下準備も十分されて、藤田ドクター、鈴木事務局長、測定スタッフに次々に質問をされていました。

ドルトムント独日協会では、寄付金集めの活動と同時に、福島の状態も常に発信されています。ドイツでは、チェルノブイリ原発事故後、放射能に対して厳しい見方をされる市民が増えたと聞きます。福島原発事故のことにも関心があります。機会を見て、イベントなどで、直接ご自分の言葉で伝えたいと、シュルターマンさんは来日の折りは勉強をかせません。たらちねのほかにも福島県内のあちらこちらを訪問され、新しい情報を集めていらっ

しゃいました。

また、福島のほかに、シュルターマン容子さんは東海第二原発再稼働反対行動（2019年11月27日）にも参加されました。「首都圏の人はもっと反対してほしい」と強く訴えておられました。心してみなさまにもお伝えしたいと思います。



☆球美チョコができました。

球美の里の見学を企画してくださったり、子どもたちに品物を提供してくださったり、さまざまな応援をいただいているフェアトレード団体のネパリ・バザー口さん (<https://www.verda.bz/>) が、「球美チョコ」を作ってくださいました。寄付金付きのマイルドチョコレートです。

インド産カカオと沖縄県産黒糖（古来の製法で作られたもの）と粗糖のみを使用して作っています。原材料のカカオは、“LISA”(Low Input Sustainable Agriculture 低投入持続型農業)という、農薬や化学肥料をできるだけ使わず、自然や環境と調和のとれた持続可能な農業で発展を目指すという理念の基、インドで生産されています。チョコレートは津波災害の支援でつながった陸前高田の工房で作られています。将来的には沖縄でのチョコレート作りも目指しているそうです。このプロジェクト全体が、大地や水などの環境、そして作る人と食べる人の健康と暮らしを守る取り組みです。

111次保養では、リトリートガーデン（球美の里の近くにあるパン屋さん）オーナーのゆきさんのご厚意で「球美チョコ」を仕入れて販売していただきました。

★セクシャルハラスメント等の調査結果(2019年9月30日付)について★

すでにホームページ上で、お知らせしていますように、当法人の名誉理事長であった広河隆一氏によるセクシャルハラスメントの問題につきまして、弁護士事務所を通じてアンケート調査を行っていました。

球美の里内部におけるセクシャルハラスメントの有無を確認するために、活動に参加してきたスタッフ、ボランティアと保護者を対象とし、どちらもおよそ500人近い人たちに調査を行いました。発送数、回答数など詳しい人数についてはホームページをご覧ください。

<https://www.kuminosato.com/officialstatement/>

調査の結果、球美の里においては、広河氏にセクシャルハラスメントを受けた、広河氏によるセクシャルハラスメントを見た、または聞いたとの回答は確認できませんでした。

アンケート調査にご協力くださったみなさまには、心より感謝すると同時に、多くのみなさまにご迷惑とご心配をおかけしてしまったことに対し、深くお詫び申し上げます。

球美の里はこれからも、子どもたちに安心して利用してもらえる環境を保持すべく、一切のハラスメントを排除していく姿勢を貫く所存です。今後とも、みなさまからのご指導ご鞭撻とお力添えをいただきますよう、どうかよろしく願い申し上げます。

★イベントのご報告・ご案内★

☆青山女子短大で球美の里の話をしました

「女性・環境・平和」をテーマに、外部からのゲストスピーカーによる授業を行っている児童文学研究者の西山利佳先生の教室で、一昨年に引き続き向井雪子理事長がお話をさせていただきました（2019年10月5日）。この日のメインゲストは「森の測定室 滑川」の根岸主門さんです。根岸さんが「放射能」についての基礎知識や実際の測定を通しての問題点、被曝の影響などをわかりやすく説明され、そのあとに、向井が「保養が子どもたちにとってどのように大事か」という内容で話をしました。福島原発事故が起きたとき、小学校5、6年生だったという彼女たちの多くが、「地震の記憶はあるけれど、原発事故がどのように環境や身体に影響を及ぼすのか？」ということ、今まで学校では習わなかった「今回初めて知った」とアンケートに書いていました。伝えていくことの大事さを今回改めて学びました。私たち大人の責任は重大です。

※一昨年の講義のあと、青山女子短大から4人の方に、球美の里の保養ボランティアとして参加していただきました。今年も「球美の里に関心がある」とアンケートに答えてくれた人たちがいます。期待しています！

☆ネパリ・バザー口主催の学習会で 保養のお話をしました

昨年10月、向井雪子理事長がネパリ・バザー口主催の学習会に招かれて、球美の里の話をしました。フェアトレードを勉強しているという明治学院大学の学生さんたち、いつも参加しているという常連さんの親子など20人ほどが集まってくださり、保養のこと、放射能のこと、チェルノブイリのことなど、向井が長く関わってきた子どもたちへの支援活動の様子をお話ししました。みなさん興味深く、聞いてくださいました。次世代に伝えていく大事な場を与えてくださったことに感謝します。

☆子どもシンポジウム（たらちね主催）

2020年1月12日（日）の午後、いわき放射能市民測定室たらちねの主催で、いわき芸術文化交流感アリオス小劇場で、「子どもシンポジウム」を開催しました。

第一部は小児精神科医学、精神分析学、乳幼児精神医学を専門とする渡辺久子先生の講演会『こどもの心は深い井戸～こころの成長を考える』です。

こどもの心の中には深い井戸があり、計り知れない豊かな洞察力と無限の可能性を秘めていること、それをどう満たし、掘り起こすか、こどもの心の仕組みから、子育てにおいて大切なことをお話くださいました。

第二部は『福島の子どもの未来のために・大人ができることできないこと』をテーマに、こどもたちの心のケアに携わってこられた専門家の皆さんのトークセッションを開催しました。

話し手は、渡辺久子先生はじめ、菊池信太郎さん（菊池医院院長 / 認定 NPO 法人 郡山ペップ子育てネットワーク）、成井香苗さん（NPO 法人 ハートフルハート代表）、松坂美由紀（認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室たらちねスタッフ）、コーディネーターは、鈴木薫（認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室たらちね事務局長）。会場の皆さんからの質問を中心に、これからの子育てをどのようにしていけば良いのか、専門家の皆さんがそれぞれの立場からお話くださいました。心に寄り添う温かなお話に、涙しながら聞いている方もおり、とても貴重な時間となりました。

ご案内

☆たらちね測定報告会 & 今中哲二講演会 （たらちね主催）

● 講演テーマ内容：「身近な放射能汚染を考える」

● 日時：2020年2月29日（土）
13:00～16:00（12:30開場）

● 場所：いわき市労働福祉会館
福島県いわき市平字堂ノ前 22

* 労働福祉会館の駐車場（16台）が満車の場合は、公共施設駐車場をご利用ください。市役所本庁舎正面玄関前平年金事務所東側と市役所本庁舎南側新川手前立体駐車場です。

● 参加費：無料 ● 事前予約：不要

● お問い合わせ先：
認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室たらちね
TEL：0246-92-2526

★球美の里の出張講座★

球美の里では、球美の里のことをより多くの方に知っていただくために、大学など学校や各種団体・グループなどへの出前講座をしています。お話を聞いてくださった方が、その後、久米島にボランティアにきてくださっています。出前講座のご希望がありましたら、東京本部までお気軽にご連絡ください。お待ちしております。

★球美の里の三つ折パンフレット★

球美の里を紹介する三つ折りパンフレットを、店舗やイベント会場に置いたり、お知り合いに配ったりして下さる方はいらっしゃいませんか。ご協力いただける方は、東京本部までご連絡ください。

★ボランティアのお礼とお願い★

毎回の保養は、ボランティアさんに助けられています。学童保養を行う夏休み・冬休み・春休みは、大学生のみなさんが多く参加して下さいます。お兄ちゃん、お姉ちゃんに遊んでもらって、子どもたちは大満足です。母子保養のときは、経験豊かないろいろな職業の方たちが参加して、保養に来たママさんたちを助けて下さいます。

「子どもたちを守る」という思いを持っていらっしゃる方で、健康であればどなたでもご参加いただけます。保養期間の少し前からの準備～保養～終わった後の片づけを含む期間でお願いしており、保養期間の半分の日数以上であればご参加いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。みなさまのご参加をお待ちしています。

★水害、台風の被害に遭われたみなさまにお見舞い申し上げます★

昨年9月から10月にかけて、15、19、21号と矢継ぎ早に大きな台風が日本列島を襲いました。15号により最初に豪雨被害にあった千葉方面、19号は東北・福島を中心に関東にも被害があり、多くの河川が氾濫しました。21号は、千葉、福島など災害に痛めつけられたところにさらなる水害をもたらしました。これだけ多方面にわたると、身内があるいは知人が被害に遭ったという方も多かったのではないのでしょうか？まさに他人事でないと感じた災難でした。

また、福島や宮城など、山や川がかき回され、フレコンバックが流されたなどのニュースに、放射能はどうなったのか？と心配の種は尽きません。

寒い季節、被害に遭われたみなさまには、少しでも早く通常の時間が取り戻せますようにと願います。

※台風と言えば、久米島は大丈夫でしたか？と、いつもみなさまにご心配をいただいておりますが、おかげさまで去年は台風の被害がほとんどありませんでした。

★球美の里の NEWS LETTER 『球美の里だより』7号を発行します★

球美の里のニュースレター『球美の里だより』7号をお届けします。ぜひ一読いただき、ご意見や感想をお寄せください。また、ご家族やご友人にもご紹介いただき、球美の里への支援の輪をさらに広げていただけるとありがたいです。どうぞよろしく申し上げます。

このニュースレターは、球美の里のホームページでカラーでご覧いただくことができます。「ニュースレターはホームページで見ると送付不要」という方は、東京本部までご連絡をください。

☆ 連絡先：沖縄・球美の里 東京本部

メールアドレス tokyo@kuminosato.net

電話 03-6205-6139 FAX 03-6205-6140

※メールやFAXをいただく際には、ご住所・お名前もご記入くださいますようお願いいたします。

※『球美の里だより』は年数回、発行しています（不定期）。

※ご寄付くださる方の便宜を考慮して郵便局の払込用紙を同封させていただきましたが、寄付を強要するものではありません。

※「チェルノブイリ34年・福島9年 救援キャンペーン」（「チェルノブイリ子ども基金」「未来の福島子ども基金」主催）のチラシを同封させていただきました。

謹賀新年



二〇二〇

認定 NPO 法人 沖縄・球美の里 NEWS LETTER 『球美の里だより』 No.7

発行 認定 NPO 法人 沖縄・球美の里 東京本部

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-19-7 タックイレブン高田馬場 702 号室

TEL：03-6205-6139 FAX：03-6205-6140 メール：tokyo@kuminosato.net

ホームページ：www.kuminosato.com/

保養ブログ：<http://kuminosato.blog.fc2.com/>

フェイスブック：<https://www.facebook.com/kuminosato.net>

インスタグラム：https://www.instagram.com/kumino_sato